

〈子どもの可能性について〉のお悩みシリーズ

最終回

将来「理系科目」が好きになるために、できることは？

「夢はノーベル物理学賞」「将来の職業選択肢を広げてあげたい」など、子どもが理系に進むことに憧れるお母さんからの質問です。徳田先生にお答えいただきました。



「こうやってたらどうなる?」「と仮説を立てる力」科学的思考力

子どもが将来、理系科目を苦手としないためにも、基礎作りとして幼児期にはどんなことができるでしょうか。

小さい子どもに対して、いきなり算数の問題を解かせることや、難しい科学の知識を話すことに、あまり意味はありません。この時期に大切にしたいのは、「こうやってたらどうなる?」と仮説を立てて検証する力」科学的思考力を身に付けることです。

子どものイタズラは、科学的思考力を育む第一歩

科学的思考を身に付ける方法として、親御さんに寛大に見守ってほしいのが、子どもの「イタズラ」です。物を落としたら割れる、袋を踏みつぶすと中身が飛び出る…など、親としては未然に防ぎたいこともたくさんあると思います。けれど子どもは「こうやってたらどうなる?」と興味があるから触るのです。「触ると怒られる」という認識ばかり持つて萎縮していると、科学的な視点は身につけません。

もちろん、本当に大切な物を壊したり、人に迷惑をかけたたりするイタズラはNGです。年齢に合わせて、与える道具や場所を工夫するようにしましょう。

次号は…

2018年春号からお届けした

〈子どもの可能性について〉

シリーズは今号で最終回です!

次号のお悩み相談もお楽しみに。



徳田先生監修「子育て・育児支援サイト」もチェック!

子育てに役立つ情報が盛りだくさん。パソコンやスマートフォンで気軽にご覧いただけます。

パソコン・スマホでアクセス!! ▶

キッズハグ

検索

<http://kidshug.jp>



徳田克己 先生

筑波大学医学医療系教授、教育学博士、臨床心理士。専門は子ども支援学、子育て支援学、気になる子どもの保育、アジア子ども支援学会会長、イオンパーセントクラブ理事。「筑波大学発達ベンチャー」子ども支援研究所の所長として、幼稚園や保育園の先生たちのコンサルタントとしても活躍。年間100件以上の講演を各地でおこない、育児に悩む方からの相談に応じている。著書に「親を惑わす専門家の言葉」、「お母さんがうなずいた数だけ子どもは伸びる」、「育児の教科書「クレヨンしんちゃん」」など。